

令和8年2月定例教育委員会 議事録

1. 日 時 令和8年2月20日（金） 13時30分から14時20分
2. 場 所 中央公民館 講義室
3. 出席委員 教 育 長 宮 本 隆
教育長職務代理 鈴木 淳子
教 育 委 員 藍 原 尚 美（オンライン）
大 藤 敏 行
4. 事 務 局 こども教育課長
生涯学習課長
こども教育課課長補佐兼学校教育係長
こども教育課児童係長
こども教育課課長補佐兼子育て支援係長
こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係長
生涯学習課課長補佐兼社会教育係長
生涯学習課課長補佐兼文化振興係長
生涯学習課図書館係長
5. 傍 聴 人 0人

1. 開 会

<こども教育課長>

定刻となりましたのでただいまより 2 月定例教育委員会を始めさせていただきます。

それでは宮本教育長より挨拶をお願いいたします。

2. 教育長あいさつ

<宮本教育長>

皆さんこんにちは。

お忙しい中ありがとうございます。

今年の寒さは非常に厳しくて、こんなに寒いのは初めてだなと思いましたが、6 時頃になると夕方の日差しも何か明るくて、だんだん春が来るなあという感じはします。今日次第の最後のところにあります新庁舎の関係で、今、公民館機能を併設している施設ですが、年代を問わず利用できるよという側面での視点の発想で、中央公民館はとてもいい施設ですが、年代を超えた利用という面から見ると弱い側面があるのは事実です。昨年の 12 月に湯浅誠さんの講演会で、子ども食堂について講演会があったというお話をさせていただきましたけれども、地方では子ども食堂という名前がついているけれども、結局高齢者の居場所として役割を果たしているというようなお話もありましたので、建設する新庁舎も年齢を問わず、居場所という施設にもなるよという趣旨も考えているわけですが、社会教育委員さんと一緒に施設見学、視察に行った塩尻のえんば一くとか、あるいは松本市の M ウイング、中央公民館はそういった施設も兼ね備えているということですので、今日はそんな視点でも見ていただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

<こども教育課長>

ありがとうございました。

次第に沿いまして、３．報告事項より宮本教育長の進行にてお願いいたします。

<宮本教育長>

３．（１）教育委員会行事・事業報告をお願いします。

<こども教育課長補佐兼学校教育係長>

教育委員会行事・事業報告になります。

期間につきましては、令和８年１月２１日から令和８年２月２０日まで

１月２１日、佐久地区市町村教育委員会連絡会及び主幹指導主事面談、佐久合同庁舎。２３日、議会全員協議会、役場。２８日、第６回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議、中央公民館。２９日、書初展審査会、中央公民館。２月１日、第２７回軽井沢卓球選手権大会開会式、風越体育館。４日、佐久地区市町村教育委員会連絡協議会研修会、ベルウィンこもろ。６日、表現コミュニケーション教育委託 ３小学校合同 ５年生、中部小学校体育館。１３日、町校長会、中央公民館。１６日、表現コミュニケーション教育委託 ３小学校合同 ６年生、中部小学校体育館、１６日、おもがえっコ・大星クラス 行政視察、御代田町。１９日、ＩＣＴ教育研究部会、東部小学校、２０日、２月定例教育委員会、中央公民館。

行事・事業報告については以上となります。

<宮本教育長>

ありがとうございました。

特にございませんか。

<教育委員>

—承認—

＜宮本教育長＞

続きまして、教育委員会の行事日程についてお願いします。

＜こども教育課課長補佐兼学校教育係長＞

教育委員会行事日程になります。

期間につきましては令和8年2月21日から令和8年3月25日まで。

3月2日、佐久地区市町村教育委員会連絡会及び主幹指導主事面談、佐久合同庁舎。同じく2日、第1回軽井沢町議会定例会 3月会議(再開)、役場。5日、第7回軽井沢オープンドアスクール(仮称)設置準備会議、中央公民館。7日、長野県小諸高等学校閉校式、小諸市文化センター。同じく7日、長野県小諸商業高等学校閉校式、小諸市文化センター。11日、町校長会、中央公民館。同じく11日、ウィスラー派遣事業 派遣者 町長・教育長あいさつ、役場。17日、3小学校卒業式、各小学校。18日、中学校卒業式、軽井沢中学校。19日、第1回軽井沢町議会定例会 3月会議(散会)、役場。20日、ウィスラー派遣事業 出発式、中央公民館。25日、3月定例教育委員会、中央公民館。

行事日程につきましては以上となります。

るるばるその他のイベント関係につきましては、子育て支援係長より説明をさせていただきます。

＜こども教育課課長補佐兼子育て支援係長＞

資料1、るるばる3月号をお願いいたします。

3月の子育て支援センターの主な行事になります。

まずは子育て講演会となり、3月17日、火曜日10時30分から11時30

分です。

対象は未就学児とその保護者となっております、知って得する薬の豆知識と題しまして、小諸市の赤坂天神薬局、薬剤師齊藤拓海先生より講演いただきます。

相談関係につきましては、日頃の困りごとなどに随時対応させていただいております。

1月の子育て支援センターの利用者数625人、相談件数92件となっております。詳細につきましては別紙をご確認ください。

以上です。

<宮本教育長>

ありがとうございました。

行事予定についてはよろしいでしょうか。

<教育委員>

—承認—

<宮本教育長>

続けて、(3)各種行事への後援等についてお願いします。

<生涯学習課課長補佐兼社会教育係長>

各種行事への後援等について、3件ございます。

1件目、軽井沢スポーツ祭2026、NPO法人SC軽井沢クラブの主催で、5月16日、17日の2日間、風越公園で開催予定。

2件目、ファンタジー・フルート 第2回軽井沢演奏会、ファンタジー・フ

ルートの主催で、7月25日、土曜日、軽井沢大賀ホールにて開催。

3件目、ライナー・キュッヒル ヴァイオリン・リサイタル、軽井沢響きの会主催で7月21日、火曜日、軽井沢大賀ホールで開催予定です。

いずれも過去に後援の実績がありまして、教育長の専決処分としたものでございますので、ご報告をさせていただきます。

<宮本教育長>

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

<教育委員>

—承認—

<宮本教育長>

(4) 児童館の利用状況についてお願いします。

<こども教育課児童係長>

令和7年度 児童館利用状況、令和8年1月分の報告です。

東地区児童館は957人、対前年同月比88%。中地区児童館は、2,328人、対前年同月比92%。西地区児童館は1,647人、対前年同月比

92%。中軽井沢児童館は219人、対前年同月比68%、南児童館は559人、対前年同月比138%。長倉地区児童館は248人、対前年同月比65%となっております。

なお、児童館・放課後子ども教室、それぞれの利用者数は表示の通りとなります。

報告は以上となります。

<宮本教育長>

ありがとうございました。

児童館利用状況についてよろしいでしょうか。

<教育委員>

—承 認—

<宮本教育長>

続いて（５）は取扱注意の部分で、個人情報が入っていますので後でお願いいたします。

４．協議事項（１）各種行事への後援等についてお願いします。

<こども教育課長補佐兼学校教育係長>

こちら令和８年２月３日付で申請がありました名義後援についてになります。

申請者につきましては、学校法人軽井沢風越学園 代表者本城慎之介、名称「かずをはぐくむ、かずがはぐくむ」実施期間につきましては令和８年３月２７日、金曜日、主催につきましては、学校法人軽井沢風越学園。実施場所につきましても軽井沢風越学園となっております。

参加費につきましては５００円となっております。

次のページ、こちら名義使用申請書になります。

こちらの中ほどにあります事業の趣旨を読み上げさせていただきます。

幼児から中学生の育ちについて独立研究者の森田真生氏の講演をしていただくというものでございます。

参加予定人数につきましては、８０人を予定しております。次のページをお願いいたします。具体的な趣旨が記載されております。こちらの方を読み上げさせていただきます。

１．趣旨になります。「本企画は、軽井沢風越学園での２歳から１５歳までの１３年間のつながりを大切にしながら、保育や子育てのエピソードを通じて「かず」の面白さに触れることで、保護者や地域を巻き込んだ「できる・できない」の算数・数学にとらわれない豊かな学びの場をつくる。

「できる・できないの算数・数学」を刷新して心をほぐすとともに、自分自身の子どもをみる視点や世界の捉え方を豊かにアップデートすることを目指しています。というものでございます。

その下のところに概要とプログラムが記載されておりますので、また後ほどご覧いただければと思います。

次のページをお願いいたします。

こちら精算書となっておりますが、予算書というような形でご覧いただければと思います。収支要約になります。

収入合計１５３,６８０円、支出合計が１５３,６８０円、支出差額０円ということで、利益の出ない事業であるというふうに見て取れます。

次のページにつきましては今回のこちらの事業の参考チラシとなっておりますので、またご覧いただければと思います。

こちらの後援につきまして、ご審議していただくようよろしくお願いいたします。

<宮本教育長>

では１件ずつお願いします。今の事業についていかがですか。

特によろしいですか。

<教育委員>

—承認—

<宮本教育長>

承認ということでお願いします。

<こども教育課課長補佐兼学校教育係長>

では次の後援お願いいたします。

令和8年1月22日付申請がありました不登校児童・生徒対象 アナログゲーム交流体験会の名義使用承認について。

申請者につきましては眞島和明、名称は不登校児童・生徒対象アナログゲーム交流体験会、実施期間につきましては令和8年3月11日、水曜日から令和8年6月17日、水曜日まで。主催につきましてはフリースクール未来 佐久校。実施場所につきましては佐久市岩村田1158-13の2階、参加費はなしとなっております。

次のページをお願いいたします。こちら名義使用申請書です。

こちらの中ほどの事業の趣旨を読み上げさせていただきます。

2025年オープンしたフリースクール未来・佐久校の開業イベントを開催。不登校状態にある小学生・中学生を対象に、アナログゲームを活用した体験型イベントを通して、子どもが地域とつながる居場所づくりを目指す。というものでございます。

こちらの参加予定人数につきましては、10人を予定しております。

次のページこちら事業計画となっておりますが、今回のこちらの実施する事業というよりはこちらはフリースクール未来 佐久校の事業目的となっております。こちらの事業目的を読み上げさせていただきます。

佐久近郊地域において、学校に通うことに困難を感じている子ども・若者一人ひとりに対し、安心して過ごせる学びと居場所を提供することを目的とする。

子どもたちの自己肯定感と主体性を育み、個々のペースや特性に応じた学習・体験活動を通じて、社会的自立への一步を支援する。

また、地域や家庭、関係機関と連携しながら、多様な学びの選択肢が認められる社会の実現に寄与することを目指す。という目的でフリースクールを開校しております。

次のページ収支予算書となっております。収入につきましては特になしと記載があります。支出につきましては印刷費 1 万円ということで、会社の経費から支出するというものでございます。

次のページにつきましては申請団体の資料となっておりますので、またご覧いただければと思います。

次のページにつきましては、フリースクール未来のパンフレットになっております。

次、決定通知書というものになります。佐久市の教育委員会から後援を受けておりますという決定通知となっております。

また次のページにつきましては小諸市教育委員会からの共催等承認通知。

また次のページは、御代田町教育委員会からの承諾通知となっております。

こちら軽井沢町内で行う事業ではございませんが、近隣市町村での後援実績があるということで、今回こちらの名義使用承認してよろしいかどうか、ご審議の方よろしく願いいたします。

<宮本教育長>

ありがとうございました。

本後援については、御意見、ご質問ありますか。

いいですか。よろしいですか。

<教育委員>

—承認—

<宮本教育長>

ということで、承認ということでよろしく申し上げます。

それでは各種行事への後援等について2件終わりました。

5.その他の関係で新庁舎周辺整備事業についてお願いします。

<生涯学習課長補佐兼社会教育係長>

よろしく申し上げます。

冒頭教育長からのご挨拶にもありました通り、今の公民館というのは若者よりは、年配の方が多い。別荘所有者よりは、在住者の方が多いという偏った利用方法を少し広げていこう、そしてそれぞれの方々をつないでいこうというような構図で今まで進めておるわけですが、本日は、庁舎周辺整備事業に係るZEBとか太陽光発電設備の方針等、それから総事業費の推移の関係について2件に絞ってご説明をさせていただきたいと思います。

資料は横版の資料になります。

まずZEB及び太陽光発電設備の方針についてなんですが、最初に結論から申し上げますけれども、環境に配慮した新施設とするために重要な指標の一つであるZEBのグレードにつきましては、ZEB Readyとして太陽光発電は新技術を見据えて将来対応可能な計画とする整備方針案としております。

まずZEBの定義ですが、記載の通り自然から直接採取できるエネルギーの収支をゼロとするということを目指した建物のことであります。それぞれ創エネと省エネの達成度によってグレード分けがされています。

創エネ、省エネにつきましてはご覧の通り、高い効率の空調設備の導入とか、今回の中庭案を採用したメリットでもある採光や換気の部分などが省エネにする要因となっております。

一方で創エネの部分は、再生可能エネルギーを活用して、電気を作るものを言

い、現時点では実用的なものは太陽光発電のみということになっております。そのため資料にもあります通り、省エネのみの場合は、どんなに省エネを進めたとしても、Z E Bのグレードは右から2つ目のZ E B R e a d yという位置づけになります。それ以上をということであれば、先ほど申し上げましたように創エネ、太陽光発電の設置が必要となります。

これについて様々な検討を進めた結果、基本計画のときの整備方針では、Z E B R e a d y以上ということを目指しまして、1番左の『Z E B』（カギゼブ）と言いますが、『Z E B』としない方針としました。

1番上のグレードである『Z E B』を達成するためには、太陽光パネルを敷地全体に敷き詰めることとなりますので、現実的ではないという判断をしたということです。

また設置場所につきましては、地上への設置ですとか、建物本体、車庫・倉庫それぞれ検討したところ、車庫・倉庫が景観やメンテナンスの観点から有力であり、具体的に基本設計で検討を進めることといたしました。

昨年4月から建物本体と合わせて、外構計画の検討を進めており、駐車場計画もある程度固まってきたことから、N e a r l y Z E Bを目指す場合の太陽光パネルの設置場所の検討を進めたところ、公用車の駐車場と一部の来客者の駐車場をカーポート等として、パネルを設置する計画ということで検討しましたが、N e a r l y Z E Bを達成するための太陽光パネルの設置は可能ではありますが、景観に配慮したものを設置するために、高コスト化し、必要以上の一般車両の車庫を設置することにもなるため、N e a r l y Z E Bを達成することが現段階では難しいという結論に達しました。

このことから、Z E BのグレードはZ E B R e a d yとしました。

また先ほど申し上げました将来対応可能な計画ということですが、現在太陽光発電設備の技術革新の過渡期であります。いずれ設置の条件が整った際には、新施設でも導入できるよう、将来対応を表現しています。

具体的に導入を予定している新技術とは以前この会議でもお話をお伝えしておりますけれども、ペロブスカイトという技術があります。

軽量、柔軟などの特徴を有し、これまで太陽電池が設置困難であった場所にも

設置を可能とするものであるとともに、主な原料であるヨウ素は日本が世界シェアの30%を占めるなど、国策ともなっている次世代技術となります。今までのように板のものではなくて、シート状のものになります。

ただし現時点では実証実験段階であり、新施設の建設時に確立しているものであるかはまだ未確定のため、それらの結果を踏まえて、新施設に取り入れられるよう、将来対応としました。

配線はしておくが、ものはつけないという理解でよろしいかと思います。

なお従来の太陽光パネルを一部でも導入するべきというような考え方もありますが、仮にペロブスカイトを実証した場合に、設備なども二重に持つことから、従来の併用がかえって非効率になるという可能性もあるため、一旦は導入しない考えとしております。

次に総事業費の整備についてですが、総事業費の内訳ということで表を整理しておりますが、まず表の1番左の列は基本計画、こちら令和7年3月、昨年度の内容で、合計が120億円となります。基本計画時には120億円から125億円としておりましたが、先ほどの説明の通り、太陽光発電設備を将来対応とするため、金額の記載をしておらず、その分の5億円は計上していないことから、合計を120億円としております。

次に真ん中の列につきましては、基本計画時から物価上昇を加味した金額となっています。まず建設費は、 m^2 単価868,000円 $\times$ 9,000 m^2 ということで、78.1億円ですが、この m^2 単価につきましては、基本計画時より物価上昇のために月平均0.425%、年に直しますと約5.1%上がっていることから、本年3月の基本設計策定時点を想定して計算しております。

外構工事費17億円、こちらも月平均0.158%、年に直しますと約1.9%上昇していることから、同じく本年3月の基本設計策定時点を想定して計算しております。

その下の設計費等の予備につきましては解体費のみの物価上昇を見込んでおりますが、それ以外の現段階では物価上昇を見込まない数値としております。

これらの合計が127.1億円となります。基本計画の物価上昇を加味すると、こういった数字の規模感になるというようにご理解いただければと思います。

す。

最後、表の右の列は今回お示しをしておりません。お示しする基本設計の例となります。こちらの列につきましては、まだ現状ではお示しできる段階ではありませんが、例えば建設費は、機能を落とさずに、面積の合理化を図るように行った上でコストを抑える工夫を行っております。

また外構工事費につきましては、以前説明したかと思いますが、外構をまんべんなく整備するのではなく、あえてあまり整備しないエリアを設置すると、段階的な整備をすることによって、地域の子どもたちや住民を巻き込みながら、みんなで作り上げていく。こういったことにより、子どもたちからお年寄りまで、世代間の交流の場ともなり得るようなコンセプトで検討を進めております。これは当然コスト面でも有効な手段でもあります。

このように様々な角度から検討を進めており、総事業費について、基本的には記載の項目を整理し、なるべく早くお示しできるタイミングで皆様にご報告したいと思っています。

今申し上げました外構部の、あえてあまり整備をしないという部分については、例えば、町民の方にそこを作っていただくというようなコンセプトも持っているということです。もし何か委員さんの中でこんなことやったらいいんじゃないかというような案がありましたら、世代間の交流の場ともなるということです。ぜひいい案いただければと考えております。説明については以上です。

<宮本教育長>

ありがとうございました。今大きく2つの点についてご説明ありましたけれども、よろしいですかね。

<教育委員>

ー承認ー

<宮本教育長>

それでは続きまして軽井沢オープンドアスクール（仮称）についてお願いします。

<こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係長>

よろしくお願いします。

先ほど紙ベースでお渡しさせていただきました青い扉のイラストが入っている2ページを説明させていただきたいと思います。

現在進めている軽井沢オープンドアスクールにつきまして現時点での途中経過ということで報告すべき事項が3つありますので報告させていただきました。

なお本日提示した資料につきましては、2月27日にあります町長の定例記者会見で説明をさせていただきたいと思います。また3月2日に行われます議会全員協議会、こちらにおいても、同じく説明をしていきたいと思っております。

こちらの資料につきましては後ほど説明になりますけれども、関係者が複数いることから、実際に提示をする資料は若干の修正があるかもしれませんが、ご承知おきください。

それでは3つの項目につきまして説明させていただきます。

1つ目、名称です。

まず信州オープンドアスクール(仮称)ということで、こちら主体は長野県になります。長野県教育委員会は、令和6年度、信州オープンドアスクール(仮称)創造会議を主催しまして、長野県初となる学びの多様化学校と夜間中学の開校を目指しまして、多様なニーズを包括したインクルーシブでフレキシブルな学校を創造する議論を深めました。この会議に軽井沢町も計4回の全てに参加させていただきました。

軽井沢オープンドアスクール(仮称)ということで、こちらは町が主で行っている事業になります。

軽井沢町はこの構想や理念に共感をいたしまして、開校を目指して設置準備会議を組織しました。令和6、7年度に7回の会議を開催しております。

学びを保障する新たな場を作っていくことが重要であると、これまで6回実施した会議において認識をさらに深めました。

これまで軽井沢オープンドアスクール(仮称)という事業名で進めておりました。この(仮称)を取りまして、今後は軽井沢オープンドアスクールという名前で進めていきたいと思っております。名称につきましては前回1月の定例教育委員会でもお話しさせていただき、ご承認いただけたということで、この(仮称)を取った名前で進めていきたいと思えます。ただ7回目の設置準備会議が3月5日にございます。この設置準備会議の名称だけは、(仮称)ということでつけさせていただきたいと思っております。

続きまして、(2)設置場所ということで、軽井沢高等学校の北校舎の一部を活用して運営していきたいと考えております。

令和9年4月の開校に向けて準備を進めていく中で、9年度、それ以降の年度につきましても、軽井沢オープンドアスクールに通う生徒と教員の意見も聞き入れながら、必要な部分の改修を進めていくということで、将来的にも引き続き改修工事をやっていきたいと、そのように考えております。

次のページ、資料2ページ、(3)今後のスケジュール予定という資料をお願いいたします。

大まかな項目につきまして、今後のスケジュール案を提示させていただきます。

今年度、一番の目標でありました国および県への申請ということで、来月3月の提出に向けて今準備の方を進めております。

かねてより国、県の方から情報がありました通り、認可まで約1年の期間を要する見込みで考えてほしいということがありましたので、令和9年3月までに認可をもらうため、そのようなスケジュール感で動いていきます。

計画書を出した後、個別協議という形で事業を進めていくことになりますので、よろしくお願いいたします。

2行目、改修工事につきまして、軽井沢高等学校の北校舎の一部を改修する工事計画になります。令和8年9月から令和9年3月までの期間を予定しております。

こちら改修工事につきましては、既存の軽井沢高校生の授業等で影響のないように最善の注意を払いながら、しっかりと準備を進めていきたいと思っております。また工事に入る前に、しっかりと教員サイドとも連携を取り、課題等を整理しながら進めていきたいと考えております。

3つ目です。生徒募集の関係になります。

こちら現時点の案ですが、まず最初に学校説明会という形で広報をしてまいりたいと思っております。

期間につきましては令和8年7月もしくは8月頃からのスタートということで予定しております。

続きまして相談ということで、こちらは実際に希望のある児童、そしてその保護者の方、支援される方との個別の相談という形で9月ごろスタートということで予定しております。

続きまして10月からは学校体験ということで、施設に関する情報等もフォローしながら、目で見ていただくと、そのような計画で進めていきたいと考えております。

その後、入学願書の受付を行いまして、最後、検討委員会による選考という形で人選を決めていく流れで考えております。

令和9年4月開校予定ということで、こちらは当初の計画通り次年度に向けて準備を進めているということで、一番最後の下段ですね。フォーラム2026ということで、7月のところに表を抽出してあると思います。

こちらは『わたしたちの学校』づくりということで、昨年度開催しましたフォーラム、これと同じように、またイベントの一環といたしまして、町民の皆様、町外の方、幅広く周知・呼びかけをしまして、ご参加いただいて、フォーラムを開催したいというふうに考えております。

先ほども説明いたしました、現在進めておりますオープンドアスクール設置備

会議、7回予定している会議ですけれども、一応今年度で終了という見込みで進めております。第7回につきましては、3月5日、木曜日に、ここ中央公民館の2階の大講堂で16時から18時までの2時間で行います。最終回となりますので、教育委員のみなさんも、もしお時間いただけるようでしたら、ぜひ傍聴に来ていただければと思っております。

オープンドアスクールに関しての説明は以上になります。

よろしくお願いします。

<宮本教育長>

ありがとうございました。

資料等、説明等の中身について質問とか何かございましょうか？はい、どうぞ。

<教育委員>

お聞きしたかもしれないですけど、学校説明会、相談、体験、その他、事務局または職員はどういうふうになっていましたか。ここに携わる職員、事務局はどういった方がなさるのでしょうか。

<こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係長>

まず、今回設置するオープンドアスクールは、軽井沢中学校の分校という形を取りますので、軽井沢中学校の校長先生、町の教育機関を始め、町の事務局の方で対応する予定で考えております。

<教育委員>

生徒さんたちが来て、実際体験していくわけですが、その運営も中学校の先生が中心に対応するのでしょうか。

<こども教育課長>

事務局で対応します。教育委員会の事務局が中心になりますが、その中に中学校の先生が入っていますので、その先生も含めて進めるような形になります。

<教育委員>

わかりました。

どの方が入るかとかはありますか。

<こども教育課長>

検討委員会ですか。検討委員会は今後、どのような方が入るか、詰めさせていただきます。

<教育委員>

ありがとうございました。

<宮本教育長>

ありがとうございます。

それでは軽井沢オープンスドアクール（仮称）についてよろしいでしょうか。

<教育委員>

—承認—

<宮本教育長>

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

<教育委員>

—承認—

<宮本教育長>

ありがとうございました。

ではこれで終わりましたので、お返しします。

<こども教育課長>

それでは以上をもちまして2月の定例教育委員会を閉じさせていただきます。

ありがとうございました。